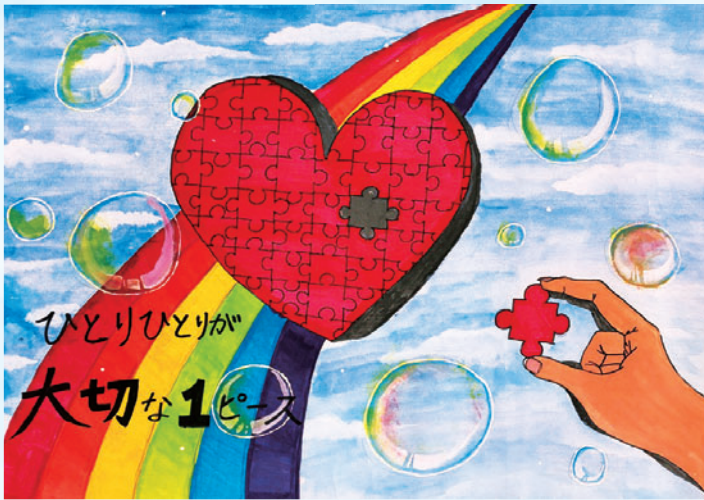


虹のひろば



2025年度 人権作品入選作



三島中学校 2年 山本 美悠



庄栄小学校 2年1組 共同作品

Pick up !!

P2~3 戦後80年を迎えて

P4~5 茨木市内の小・中学校の平和学習の取組み

発行 茨木市人権啓発推進協議会

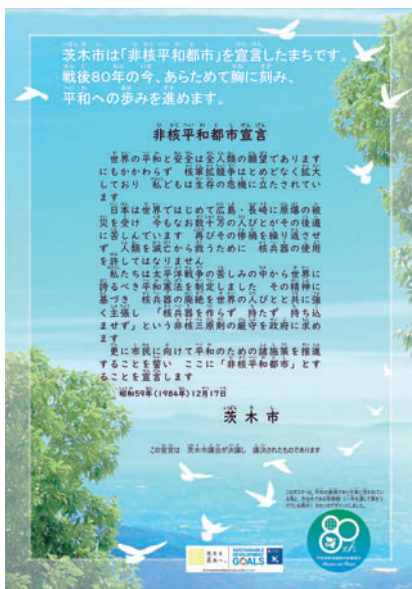


2025（令和7）年は1945（昭和20）年の第二次世界大戦の終結から80年を迎える節目の年であり、戦争の惨禍を忘れず平和の重要性や尊さについて考える年でした。この間、戦争の記憶の風化を防ぐため、多くの団体やメディア等において、語り継ぐための活動が取り組まれてきました。ニュースの中の記念日で終わらせず、「何故この日があるのか」を言葉にする、話すことで記憶はつながり意識は育ちます。

戦後80年の歳月が過ぎ、戦争体験者が減少する中、戦争の記憶や悲慘さをいかに後世に伝えていくのかが大きな課題です。今一度、戦争体験の聞き取り活動や講演会の開催が必要となっています。また、体験者の言葉には、その人にしか語れない重みがあります。しかし、同じようには語れなくても、その内容を次の世代に伝えていくことはできます。聞いてくれた人の心に何かを残せると思っています。

平和を願うだけでは足りません。平和を持続的に継続させていく、平和を設計していく力が問われています。平和のバトンをつなぐため私たちに

できることは何なのかを考え行動することが大切です。改めて戦争が何故起きたのか、どのように進行していったのかを検証する必要があります。昨年、日本政府において石破茂首相（当時）から「戦後80年所感」が発表されました。内容的には何故あの戦争を避けることはできなかったのか



非核平和都市宣言

を論じたものとなっています。所感の最後には「国民の皆さまと共に、先の大戦のさまざまな教訓を踏まえ、二度とあのような惨禍を繰り返すことのないよう、あたらう限りの努力をしてみたいです。」と締めくくられています。人は同調圧力や

恐怖に支配されれば誰でも愚かな選択をしてしまいます。戦争へと進んで行った反省を踏まえ、第二次世界大戦の当事国として、世界に訴えていくことが必要だと思っています。



茨木市非核平和展

るために銃を持たずにすむ世界を築くことを訴えていく必要があります。

茨木市では1984（昭和59）年に非核平和都市宣言が市議会において採択され、非核平和についてさまざまな取組みが実施されてきました。具体的には毎年7月末から8月初旬にかけて非核平和



茨木市非核平和展で展示
高校生が描いたヒロシマ
「原爆の絵画展」

和街頭啓発活動として、JR茨木駅、阪急茨木市駅等で啓発グッズの配布の実施（現在はコロナ感染防止及び猛暑のため廃止）。また、中央図書館からお

現在、世界の各地、特にウクライナやイスラエルのガザ地区などでは、たくさんの人が犠牲となった。空襲におびえ、大切な命が危険にさらされたりしています。大切なものを守る

にクルに開催場所は変わりましたが、非核平和展への参加協力など、茨木市人権啓発推進協議会(以下人権協)として長年にわたって協力をしてきました。

これまで人権協では、平和に対する取組みとして、戦争体験や被爆体験の聞き取り講演会を開催し、たくさんの市民の方に戦争の悲惨さ平和の尊さを訴えてきました。また、役員研修等において戦争や平和に関連する施設や地域などの見学、現地学習を実施してきました。



被爆石モニュメント

進していきます。

人権啓発研修会

令和7年10月30日に、広島で2歳の時に爆心地から1.5kmのところでは被爆され、語り部活動を続けられている三戸森 薫子(みともりつたこ)さんをお招きし、人権啓発研修会を開催しました。

私たちは人権協は、戦争は最大の人権侵害であり

許すことのできない行為として反対をしてきましたし、いかに平和を維持していくかについて考え行動してきました。今後もその立場は揺るぐことはありません。戦争に反対するすべての人たちと絆を結び、人権が守られた平和な社会づくりに邁進していきます。
(大和 勇三)



講演中の三戸森 薫子さん

るきっかけをいただきました。

三戸森さんは2歳の頃に広島で被爆され、大切な家族を失いました。三戸森さんがお母さんから聞いて、私たちに伝えてくださる当時の様子は、それは恐ろしいものでした。さらに、その後も三戸森さんは、ずっと被爆したという事実とともに生きなければなりません。御自身は怪我も病気もないのに、結婚しようとしたときに原爆に遭っていることを伝えると、相手の家族から「どんな子ができるかわからん」と言われ、二度も結婚差別にあいました。

戦後80年となり、実際に体験された人が少

なくなってくる中で、平和の大切さを伝えることが難しくなっています。そんな中で今回、三戸森さんのお話が聞けたことは本当に貴重で、改めて平和について考える

実際に原爆に遭われ、命を落とした人。家族や友人など、大切な人を失った人。原爆のために怪我や病気になる、後遺症に苦しむ人。そして、「被爆した」ということだけで、



講演会会場

いわれない差別を受ける人。戦争は、原爆は、どれほどの人の人生を踏みにじり、悲しみを与えてきたのでしょうか。これは決して忘れてはならないことであり、繰り返してはいけないことです。

今世界を見ると、決して平和とは言えないことが起こっています。日本は唯一の被爆国として、核の恐ろしさを世界に伝え続け、平和を願っていかねばなりません。私も今回、三戸森さんのお話を聞き継いだ一人として、平和のために自分のできることを考え続けていこうと思います。
(井上 加守子)



平和学習の取組みについて



平和を考える特集が生まれ、改めて戦争の悲惨さや平和の尊さを訴える取組みが各地で行われました。また、さまざまな角度から戦争と平和について考えた、6年生の取組みをお伝えします。

豊川小学校の取組み

豊川小学校では、修学旅行で広島へ行くことをきっかけに6年生が平和学習を行い、学んだことを全校へ発信し、それを受けて他学年も平和学習に取り組んでいます。さまざまな角度から戦争と平和について考えた、6年生の取組みをお伝えします。



平和記念公園 (広島)

6年生の平和学習

全校へ呼びかけ— 絵本読み聞かせ「みんなのヒロシマ」・千羽鶴の取組み

しんちゃんの三輪車—

資料館の展示物から、その背景にある遺族の思いを知る。

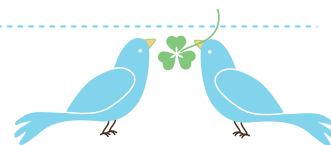
大阪空襲—

戦争がこの近辺でも行われ、大切なものが失われていたことを知り、平和を守っていく必要性を感じる。

大久野島 (毒ガス製造の島) の歴史から学ぶ—

日本も加害者だったことを知る。戦争は人を変え、正しい判断ができなくなってしまうことを知る。

被爆者の人生から学ぶ— 本校職員による祖父からの伝承／被爆体験伝承者の講話
戦争を伝承していく生き方と出会い、自分ができていることを考える。怒りや憎しみを持ち続けるのではなく、それらを乗り越える生き方から、自分の生き方について考える。



修学旅行

平和記念公園
フィールドワーク
原爆資料館見学

身近な平和のために

リスペクトアゼース～相手を尊重することが平和へとつながる事を考える。

学びを発信

まずは、豊川小学校の平和から



子どもたちの感想

大阪空襲—今の生活ができていたことを当たり前と生きていたけど、そうではない人がいることを知って胸が苦しくなった。今、幸せで過ごせていることに感謝しながら生きようと思った。

大久野島 (毒ガス製造の島) の歴史から学ぶ—間違ったことを当たり前にしてしまうほど、戦争は人をおかしくさせてしまうことを知った。戦争は、人の自由も、幸せも、笑顔も、大切な家族や友達も、うばってしまう。



被爆者の人生から学ぶ—生き残ってしまった人々は、いったいどんな思いでいるのかと思っていたのですが、小倉の人のように自分たちの代りに長崎に原爆を落とされてしまったという罪悪感に苦しんでいる人もいたということを知りました。「平和は当たり前と思えて当たり前ではない、平和は大切なことなんだ。」と伝えることが、話しを聞いたぼくたちができると感じました。

身近な平和のために—暴言や暴力や悪口で解決するよりは話し合いの方が誰も傷つきません。大切なことはお互いを尊重し合い、仲を深めることです。全く同じ人はいません。だから一人一人の良さをこれから見つけていきたいです。

平和学習をしてケンカが減りました。ケンカが減ると、いつも楽しく過ごせます。戦争をなくすことは難しいけど、世界中全員が人を尊重し、認めあうことができる世界にしたいです。それを豊小からはじめたいです。



茨木市内の小・中学校での

戦後80年を迎えた昨年、終戦記念日の8月15日を中心に、新聞・TVなどで戦争に関連した、修学旅行で沖縄や長崎、広島へ行き、学びを深めるなど、市内の小中学校でも、毎年、さまざま



彩都西中学校の取組み～平和のバトンを繋ぐ

本校では、人権学習の柱の一つに平和学習を位置づけ、全学年が平和について学び、考え、行動につなげる取組みを毎年行っています。1・2年生での学びを3年生の修学旅行・文化発表会でさらに深め、後輩に伝えることで、代々の先輩から引き継いだ平和を願う想いを紡いでいます。

平和大使

本校では初めての取組みとして、有志の生徒が「平和大使」として沖縄の中学生とオンラインで交流し、学んだり考えたことを全校生徒へ発信しました。交流した生徒たちは、自分と同じ年代の沖縄の中学生が日常的に戦争の歴史や基地問題と向き合い、平和のために活動していることを知り、とても刺激を受けた様子でした。

笑顔の礎プロジェクト

沖縄の中学校がスマイラル(笑顔の寄付)という活動をしていることを知り、平和とはたくさんの方が日常生活を笑って過ごせることなのではないかと考えた平和大使の生徒たちは、「笑顔の礎プロジェクト」を立ち上げました。目標に「辛いことを経験した沖縄から優しい笑顔を学んでくる。沖縄から平和を祈り、世界に笑顔の花を咲かせる。身近な平和、一人ひとりの人生での笑顔を大切にする」を掲げ、平和学習に取り組むとともに、一人ひとりが「自分が平和のためにできる行動」を考え、画用紙に「平和行動宣言」として書いたものを、沖縄現地で笑顔で撮影することにしました。

平和セレモニー

沖縄の平和祈念公園では、「HEIWAの鐘」を合唱、「学んだものを後世に伝えていくことが戦争で苦しんだ人たちの心を少しでも救えると信じています。ただ身につけた知識を淡々と話すのではなく、言葉に責任を持ち、私たちで平和のバトンをつないでいきましょう。もう二度と大勢の人たちが傷つかずにすみますように。私たちは語り継いでいきます。」と平和を誓い、折り鶴を奉納、黙とうを捧げました。



平和祈念公園(沖縄)

ピースワークショップ

今年度の3年生は、本校で初めて「ピースワークショップ」にも取り組みました。修学旅行の事前学習として3年生全員が自分で調べまとめたものを、クラス内で班ごとに発表。修学旅行後は、現地での学び・感想・考えたことも加え、全校生徒でワークショップを行いました。1・2年生は班ごとに3年生の3つの班の発表を対面で聴き、一生懸命に戦争の悲惨さや平和の大切さについて訴える3年生の姿に間近に触れ、心を動かされている様子でした。



平和の集い

ピースワークショップ終了後、全校生徒が体育館に集まり、3年生代表が作文を読み上げた後、3年生の平和行動宣言・平和セレモニーの様子をまとめたスライドを視聴。全校生徒で平和について考える時間となりました。教室に戻ってから、1・2年生も自分の「平和行動宣言」を考えて記入。全校生徒の平和行動宣言を貼った「笑顔の礎」ができあがり、生徒が登下校する玄関前の壁に飾っています。



～彩都西中に平和の笑顔があふれますように～



会長 吉田 明弘

私は、大池小学校区で約60年生活し、大池小学校の児童だった頃は、今のよう大きな分譲マンションやワンルームマンションはまだなかったです。農地もたくさん残っていて、小さな牧場もありました。以前は賃貸住宅もたくさんあり、お風呂がない住宅も多かったのですが、校区に銭湯が2軒ありました。大池小の隣にコンビニがありますが、その敷地の一部は、昔は銭湯でした。

地域行事もたくさんありますが、みなさんが楽しみにしていたのは、大池小学校で行われる大池祭り（現在の大池フェスティバル）です。当初は、盆踊りが主体でしたが、回数を重ねるごとに趣向をこらしたものになっていきました。学校から少し北にある東西通りを封鎖して、こども神輿が通ったこともありましたが、運動場にハンバーガーチェーン店の出店があったこともありました。

私は、長年にわたって小学校教員をし、さまざまな領域の人権学習を進めてきましたが、特にこだわったのは、「食」や「環境」の領域です。バナナやおやつをテーマにした食育の授業を通して、人権課題や食を食べることは、心と深くかかわっていることに気づかせようと思いました。それは、食を食べることが、生きていくことの基本と考えるからです。衣食住が生

きていくことの基本ですが、こどもたちには、その中でも「食」が最も親しみやすいと考えて自分のこだわりを伝えてきたつもりでした。

現在は市役所で生活困窮者自立支援を担当していますが、業務にかかわる中で、地域の人権啓発推進には、福祉の観点が不可欠だと感じるようになりました。当時の大池小学校の校長とも打ち合わせを重ね、地域の諸組織との連携による見守りを大切にしたいと思いました。

市役所の福祉部に籍を置き、そして民生委員・児童委員でもある私にとって、孤独死、ひきこもり、



令和7年度の講演会

貧困といった事例は特別なことではありません。これらは地域の大きな人権課題ととらえています。障がいのある方、外国人の方との共生も地域の身近な人権課題です。

「社会福祉と人権を結びつけていく実践活動に人権のまちづくりがあると思います」という三重県の発信のように、隣近所で生じている課題に対して、21世紀を人権の世紀にするために地域の他団体との連携をより大切にする必要があります。基本的な人権の尊重の精神に基づき広く人権について学び、人権意識の高揚を図ることで、人権が守られた豊かで住みよい、地域のみなさんが安心して暮らせるまちづくりに貢献したいと思います。

活動内容（講演会）

◆ 令和6年度―令和7年3月1日

講師：環境活動家 谷口たかひささん

「地球と私を大切にする…気候変動と自己肯定感」

◆ 令和7年度―令和7年11月7日

講師：梅花女子大学教授 伊丹昌一さん

「子どもの心と行動から考える子育てのヒント

～地域で支える令和の子育て～」

（令和6、7年度ともに大池小学校PTAと共催）

私たちも人権協に協賛しています

- 株式会社神戸製鋼所茨木工場
- 茨木商工会議所
- 株式会社吉野工業所大阪工場
- 学校法人追手門学院
- 大和製罐株式会社大阪工場
- 株式会社明治屋食品工場
- 医療法人成和会ほうせんか病院
- 住友生命保険相互会社茨木支社
- 肥田電器株式会社
- 早稲田大阪高等学校
- ソントン食品株式会社大阪工場
- 大阪府中央卸売市場管理センター株式会社
- 北おおさか信用金庫
- 茨木市農業協同組合
- 社会福祉法人慶徳会
- 丹平製薬株式会社
- 大成化工株式会社
- 学校法人藍野大学
- 株式会社セイビ大阪
- 茨木ドライビングスクール
- 医療法人恒昭会藍野病院
- 一般社団法人茨木カンツリー倶楽部
- 株式会社トゥー

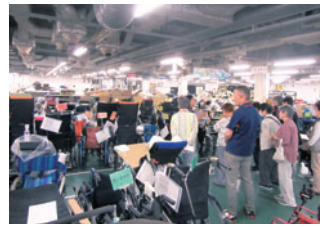
（順不同）

人権バスツアーに参加して

川村義肢株式会社と

堺市立平和と人権資料館を訪ねて

茨木市人権啓発推進協議会(人権協)では、すべての人々の人権が尊重されるまちが築かれるように、茨木市人権センターと協働して啓発活動を進めています。人権センターでは、市民の誰もが参加しやすい、人権問題について身近で親しみやすい研修会やバスツアーを企画しています。令和7年10月8日(水)に、開催された「人権バスツアー」には33名が参加しました。



川村義肢工場見学

まずは、大東市にある川村義肢株式会社を訪問しました。冒頭の会社説明では、「あきらめなくとも

いいを形にしている会社」という会社の方針のもと、日常生活用の義足や義手だけでなく、スポーツ用の義肢や、装具や自助具の製作をされているというお話がありました。また、障害者雇用の促進に努めておられ、

平成28年度には大阪府ハートフル企業大賞を受賞したことも紹介されました。次に、従業員のガイドさんから説明を受けながら、工場と資料館の見学をしました。見本の義足を持たせていただき、「意外に重たいものだなあ。」との参加者からの声がありました。工場では、義肢の製作だけでなく、車椅子の改造や修理もされていました。



従業員の方からの講話

境によって作り出されているとする、いわゆる「社会モデル」の考え方が大切であることに加えて、合理的配慮やインクルーシブの考え方についても、国内だけでなく外国の事例も紹介していただきながらお話をいただきました。また、最近では「福祉機器」という呼び方から「支援機器」と呼ぶようになっており、現在の最大の支援機器はスマートフォンであるとの話をされた場面では、参加者の多くが共感しました。

その後、従業員の方からの講話がありました。障がいや困りごとが個人に起因するのではなく、社会や環境によって作り出されているとする、いわゆる「社会モデル」の考え方が大切であることに加えて、合理的配慮やインクルーシブの考え方についても、国内だけでなく外国の事例も紹介していただきながらお話をいただきました。また、最近では「福祉機器」という呼び方から「支援機器」と呼ぶようになっており、現在の最大の支援機器はスマートフォンであるとの話をされた場面では、参加者の多くが共感しました。

続いて、堺市にある堺市立平和と人権資料館(フエニックス・ミュージアム)を見学しました。

最初に資料館の職員の方からの講話があり、広島・長崎の原爆についての資料の紹介や、太平洋戦争下における学童疎開の話や、5回に渡って襲われ

た堺空襲の話をしていただきました。最も甚大な被害があった4回目の空襲では、1発の親弾から38発の子弾が上空でばら撒かれる焼夷弾による攻撃で、一夜にして1860名の命が奪われたとの話を聴き、胸がとても痛くなりました。



館内の見学

講演後は各自で館内の見学をしました。展示室は、人権、環境、平和の3つのゾーンに分かれており、平和ゾーンには戦時中の生活用品や被災した物品も展示されていました。特に千人針やお守り等の実物を目にする

当時の状況や、当時の人々がどのような思いで大切な人を案じていたかを想像するだけで、悲しく辛い思いを感じました。企画展示コーナーでは、現在も続いている戦争の様子が、写真とともに紹介されており、参加者からは「平和のありがたさを感じました。」との感想をいただきました。

戦後80年を迎える今、戦争によって多くの命が失われる毎日が世界のどこかで続いています。日本では戦後と呼んでいます。決して戦後とは言えないのではないのでしょうか。

平和とは何か？ 人権とは何か？

私たち一人ひとりが、日常や社会に存在する人権問題に気付き感じることができ、「自分自身の問題」として捉え、自問自答しながら、学び続けること、考え続けること、行動をしていくことの大切さを改めて感じました。

茨木市人権啓発推進協議会 副会長 小出恵市



「自分らしくあなたらしく」
大阪府立福井高等学校3年 岸田 愛歩

株式会社神戸製鋼所茨木工場

宮地 武志

気づいてね
軽い言葉の
その重み



「どんな見た目でもいい」
大阪府立福井高等学校3年 西谷 真咲

発行責任者 茨木市人権啓発推進協議会
会長 加古 望
事務局 茨木市人権センター内
☎072-622-6613

尾崎 伸行

北おおさが信用金庫

ミヤクミヤクの
笑顔はまるく
みな平和

北口 千佳

そのままがいい？
いや、そのままがいい
君はただ一人の
かけがえのない君だから

(敬称略)



「みんな違う。」
大阪府立福井高等学校3年 高梨 遊夢

その差別
しない させない
見逃さない

大成化工株式会社
小林 恵玲央



「一人じゃないよ」
大阪府立福井高等学校3年 深谷 咲